



つうしん

岐阜ダルクニューズレター 2周年特別号

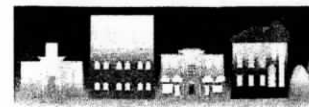


岐阜ダルク 2周年フォーラム

共に生きる

人は一人では生きられない
皆 支えあって生きている

強くなければいけないと思っていた
ひとりでがんばらないといけないと思っていた
葉が必要になっていった
いつしか生きることがどうにもならなくなった
弱くていい
自分の弱さを認めた時
人と共に生きることを始めた



岐阜ダルク 2周年にあたって

岐阜ダルク後援会会長 由井 滋

秋も深まり、朝・夕めっきり寒くなりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。私は体調をくずし、長期療養のため函館から JR で1時間程の丸山のふもと、津軽海峡を見下す小高い丘にあるトラピスト修道院でやっかいになっています。ダルク関係者の皆さまには御迷惑をおかけして申し訳ございません。

さて、岐阜ダルク後援会が発足して1年になろうとしています。代表の遠山さんを中心に2ヶ月に一度程集まりを持ってきました。岐阜ダルク発足当時より、少しずつ岐阜県の中で薬物依存について知られるようになりました。一重に遠山さんの奮闘努力のおかげと思っています。しかし、種々の理由から薬物依存に陥った人々への理解は薄く、偏見に満ちています。そのような中で、人生のどん底からはい上がろうとダルクを知り、薬物依存が病気であることを知り、回復しようとハイヤーパワーと仲間にささえられ、毎日ミーティングとトレーニングに励んでいる若者を見る時、どうしても見捨てる訳にはゆきません。そして彼等が使命感に燃えて、薬物依存に落ち入って人々に薬物依存の恐さを身をもって語り、希望のメッセージを伝える人々になってゆくのです。

どうか多くの皆さんに「ダルク」の大切さを知っていただき、ご協力して下さることを心からお願い致します

2周年ありがとうございます

岐阜ダルク代表 遠山 香

最近の事です。その日どうしても作成したい資料があり、あせっていた時の事です。やっとの思いでパソコンに打ち込み、「プリントしたらできあがり」と印刷をクリックすると「ガガガ…」との音とともに用紙がつまりました。助成金の申請がとおり購入したばかりのプリンターです。説明書を見た方がとも思ったのですが、面倒だったので見ませんでした。おそろおそろ用紙をひっぱるもとれません。いらついた私は、少々強く引っかかりました。すると用紙は取れましたが、その後プリントし直すも何度やっても同じようにつまってしまうのです。仕方なく説明書を読むと、「強く引っばると故障の原因となります」と書いてある。「うわー、どうしよう」…… うー、もう、ますますいらいら。プリンターと格闘すること1時間。結局あきらめて、購入先の電機屋に走った。「用紙がつまってしまって… 説明書どおりにやったんですが…買ったばかり

なんです」と言う私。内心自分にあきれたり、少々の罪悪感、そして私のやり方がまずかったのではないとの言い訳を心の中で必死にしている私。作成する資料は最後の所でできあがらず、夜自宅のパソコンにてプリントアウト終了。過去の私なら、こんな事があろうものなら、むかついて物事を途中で放り出したものだ。もっと言えば、プリンターをたたいて、こわしていたかもしれない。少しは成長したのだろうか……？？？

日常の出来事の中で常に自分の行動や思考を見つめる習慣がついた。ダルクで行っているミーティングの効果だ。今度は用紙がつまったら、説明書を見てゆっくりやろう。(プリンターは無事修理完了しました(笑))

ゆっくりあせらずに…… 人生もそうありがたい。

岐阜ダルクを支えて下さいました皆様に心からお礼申し上げます。

そして又、ダルクの事を新たに知った皆様、どうか今後ともダルクの活動にご理解、ご協力をよろしくお願いします。

岐阜ダルク 外山憲治

ここ岐阜のメインストリートでも、街路樹にイルミネーションが灯りクリスマスセールが始まりました。いつも心温まる穏やかなお心遣いをして頂き、皆様に心からお礼申し上げます。

2年目に入った岐阜ダルクには毎日の様に相談の電話が入りお父さんやお母さんに手を引かれた新しいメンバーが入れ替わり立ち替わり訪れました。

ここで働いている遠山さんも大変だった様です。この1年の歳月を経た事で彼女も少し成長しました。岐阜ダルクの運営費の方も相変わらずで自転車操業が続きました。開設して2年目を迎えようとしています、ここは何も変わっていません。いまだ薬物を止められ人達にメッセージを発信し続ける場所として活動していきます。

どうぞお祈り下さい。今年は何故かやけに自然に親しむ機会があり、川や山で見た夕日が胸に染み入りました。何をそんなに生き急いで来たかと思います。今年も様々な思いを残して過ぎていきますが、よろしかったら弱くて小さな岐阜ダルクを支えて下さい。出会ってから今日まで支えてくださいました方々に心からお礼申し上げます。 ありがとうございます。



ダルクに接してみて

岐阜県健康福祉部薬務水道課 山内 康裕

「岐阜ダルク」の設立2周年おめでとうございます。

県としては、今年度、県内5地域において、岐阜ダルクが設立されてからこれまでの取り組みを紹介するとともに、関係機関の方々との交流を図ることを目的として、岐阜ダルクとの意見交換会を開催してきました。遠山代表からは、ご自身の薬物経験を踏まえて、ダルクの役割、ダルクのルール、講演活動、相談の内容、ボランティア活動など岐阜ダルクの取り組みや現在抱えている問題などについて詳しく説明をしていただきました。

この結果、意見交換会に出席した薬物乱用防止指導員、医療関係者等からは、「刑期・治療を終えた患者をフォローするところがなく困っているの、ぜひダルクを紹介したい。」とか、学校関係者からは「生徒にどこまで話をすべきなのか。」等多くの意見があり、各地域の方々との交流が図られるとともに、「岐阜ダルク」の理解を一層深めていただくことができたものと思います。

今後、ダルクとどのように連携していくのか、ダルクに何を期待していくのかなど、行政にとっては難しい課題だと思います。というのは、行政の関与が大きすぎると独立性・独自性が失われて皆さんのやりたいこと、したいことができなくなってしまうのではないかと。とはいっても何も思わなくていいのか？など様々な思いが浮かんできます。

なお、1986年から活動を続けられてきた「名古屋ダルク」が、愛知県から、薬物乱用防止に対し功績があった者として、10月25日に知事感謝状を授与されましたことは、薬物依存から回復するための自助活動が、広く社会から認められた証といえ敬意を表する次第です。

「岐阜ダルク」におかれましても、地道な活動を維持されていくには大変な努力が必要と思いますが、1人でも多くの薬物依存症者が社会復帰できるよう引き続き活動されますことを期待致します。

岐阜ダルク設立2周年記念に寄せて

岐阜市NPO・ボランティア協働センター 川瀬 和幸

錦秋の候、岐阜ダルク様におかれましては設立2周年を迎えられますこと、心からお喜び申し上げます。

日本では、東京で今から21年前に薬物依存症の人たちのためにダルクが設立され、今日では日本全国に40箇所ほどの施設があると聴き及んでいます。

過日、当センターに岐阜ダルクの機関紙印刷に若い青年が参りました。私は青年の素晴らしい体格に思わず「何かスポーツでも？」と問いかけたところ、青年は「自身の体と心に向き合うために、毎日長良川まで15kmを走ったり、バーベル100kgを上げトレーニングをしています。」と清々しい笑顔で誇らしげに語ってくれました。

私はこの青年に強く感銘を受けたところであります。

今日も青年は、蒼く流れる清流長良川と金華山を仰ぎ見ながらトレーニングを行っていることと思います。

岐阜ダルク様には、多くの苦しんでいる薬物依存者に仲間と共に人間としての生きる勇気を与え、命のリレーの施設として益々活動されんことを心より祈念いたします。

地域ネットワークとしての病院とダルクの関わり

各務原病院 看護師 森 昌志

私は、精神科に勤めて13年目を迎えます。当院は、ARP(アルコール症リハビリテーションプログラム)を中心に、アルコール症の専門病院として、断酒会の方々と治療回復に取り組んでいます。

ですが、近年、他の薬物(シンナー・ブロン・処方薬・etc)で入院されるケースも増加し、それまでの中高年の方中心のプログラムでの対応に限界を感じて新しい取り組みを模索していました。

そんな折、岐阜にダルクができると聞き、開設に向けてのフォーラムに病院のメンバーと参加、お話を伺うことができました。開設後、間もなく代表の遠山氏より電話をいただきました。これが、当院とダルクとの出会いでした。

岐阜ダルクの方が病院にメッセージを運んでくださるようになり、早や2年目を迎えます。病院のメンバーにとって、ダルクとの出会いの場が提供されたことにより、病院で身体のリハビリ、教育を受けたメンバーが退院後、ダルクへ。

こういった新しい回復の流れが、多くのメンバーをダルクへ繋げていきました。これからは地域ネットワークのひとつの窓口として、すこしでも回復の手助になるよう連携を拡げていきたいと思っています。



仲間の話・はなし



2周年に寄せて

秋田ダルク 代表 平原 薫

岐阜ダルク開設2周年、おめでとうございます。

原稿の依頼を引き受けさせて頂いたものの、なかなか原稿を仕上げる事が出来ず締め切りも過ぎてしまい「あっ！ヤバイ」と思っていると突然、電話が鳴りました。受話器の先の声は施設長のかおりからでした。「原稿、どうなってる？」と問われ、その日の夜、慌ててパソコンとにらめっこをしています。

和歌山生まれの私ですが人生の大半を三重、名古屋で暮らしてきたので岐阜という土地にも色々な思い出があります。振り返ると良い思い出より薬に支配され彷徨っていた恥ずかしくも苦しい思い出ばかりが脳裏に浮かびますが、だからこそ自分の苦しんで過ごした場所にダルクが出来たことをうれしく思います。施設長の遠山さんと初めて会ったのはもう6年位、前になりますかね。当時、私は茨城ダルクでスタッフをしていたのですが、用事で名古屋ダルクに電話をするといつも遠山さんが電話にでて、初対面だというのにまるで10年来の友のようにお互い言いたいことを言い合っていたように思います。今でも遠山さんとは色々な話をしたりして私にとっては飾らずに本音で話し合える仲間の一人です。

施設をやって行く過程においては困難なことが時として与えられますが、いつも遠山さんの傍に仲間が居ることを忘れずに、遠山さんらしさを失わず困難なことに打ち勝って頑張ってください。私も2年目は色々、大変でしたが仲間、家族、支援者の皆様に支えられ今日があります。今日一日を大切に仲間と共に歩んでください。

感謝のうちに



← 岐阜ダルクの入口です。
この看板を目印に来てね

岐阜ダルク写真館



← 事務所です。



→ 鳥取砂丘にて



↑ 小牧カトリック教会バザー
「活動資金なので買って下さい〜」



献金のお願い

岐阜ダルクは皆様の善意の寄付によって支えられています。
活動資金が少なくなり年末に向けて不安な日々を過ごしています。
宜しければ、皆様のお気持ちでどうか私たちの回復を助けて下さい。
ご協力をお願いいたします。

郵便振替口座 00840-5-167752

岐阜ダルク後援会

銀行振替口座 十六銀行 問屋町支店 普通 1261434 岐阜ダルク 代表 遠山 香

編集後記

本日はお寒い中を岐阜ダルク 2 周年フォーラムにお越しいただきまして、有難うございます。いつものごとく、フォーラム間際まで鶴帖つうしんの編集に追われています。編集しながらふと、思ったこと。改めて、ダルクってグリーフワーク（喪失からの癒し）の場所だなど。大切（依存）にしていたものを失うのは誰にとっても耐え難い悲しみを伴うもの。でも、ダルクは仲間とのグループセラピーで癒しと再生（回復）を与えてくれます。そういえば、私も仲間にたくさん与えられて、今やっと過去の出来事に少し向き合え、手放せそうな気がする日々です。私も、きっともっと良い人生が与えられる。そんな嬉しい予感の今日この頃です。

ダルクの仲間たちや、ダルクを支えて下さっている家族の方、支援者の皆様にお会いでき心が温くなりました。そして、今日をご縁にまた新しい仲間や皆様にお会いできますように。

感謝を込めて



☆☆☆ (黒猫じじ)

鶴帖つうしん 2 周年フォーラム特別号 (No.6)

★編集 岐阜ダルク

〒500-8175 岐阜市長住町 7-3 TEL/FAX: 058-251-6922

郵便振替口座 00840-5-167752 岐阜ダルク後援会

銀行振替口座 十六銀行 問屋町支店 普通 1261434 岐阜ダルク 代表 遠山 香

★ 定価 一部・100 円 ★ 編集責任者 遠山 香

★ 発行所 岐阜ダルク